



緑の架け橋

会報第33号

(協賛会員登録呼び掛版)

2019年01月08日

日中緑化交流基金助成事業

IFCCプロジェクト代表：佐藤晴男

協賛団体：NPO 法人アジアンロード

五期目に入る寧夏・固原市、内モンゴル・多倫県（2件）の植林事業

足掛け17年となる日中緑化植林活動で「緑の架け橋」を育んできました。2018年度助成金(2018年11月～2019年10月)で事業を継続していきます。

～初心を継続！植林活動と交流が、友好という名の大河の一滴となるように～

緑の架け橋へ

寧夏・回族自治区／固原市プロジェクト第四期1年目全景／雲杉 (2018・4・21)

2002年11月緑の架け橋推進センターを設立、その後推進母体の改編を行いながら足掛け17年となりました。

これは日中緑化交流基金の助成を得た事業主催・IFCC国際友好文化センターの呼び掛けによるものです。

2008年11月、緑の架け橋推進センター解散。その後、「緑の架け橋」の活動は、事業主催のIFCC国際友好文化センターの下で「緑の架け橋プロジェクト



2018/04/21 11:09

内蒙古・多倫県／蒙京津冀プロジェクト第一期4年目全景／樟子松 (2018・5)



ト」として継続され、2014年まで9つのプロジェクトを実施、終了。累積205人が参加。

2014年度(11月開始)から、NPOアジアンロードを推進協賛団体として内モンゴル2ヶ所、寧夏回族自治区1ヶ所を開始。2017年に同プロジェクトの3カ年計画の最終年として全体的な総括を行い継続していくことを確認。

2018年、固原市、内モンゴル多倫県(2事業地)で四期目の植林活動を実施してきました。今年度は5月と7月、第五期としてそれぞれの事業地へ緑化派遣団を予定しています。※詳細、別添

【2019年植林緑化派遣団】参加者募集中
本事業は後2年を残すのみとなります。この機にご参加を呼び掛けます。同封案内チラシをご覧ください。

IFCC 国際友好文化センター

〒162-0801 東京都新宿区山吹町 333 辻ビル 405
TEL.03-3268-4387 FAX.03-3268-6079
□座：中央労働金庫市ヶ谷支店(普)0858119 郵便：00130-9-425994
□座名：緑の架け橋推進センター(いずれも)
会報は事業主催(IFCC)の植林プロジェクト特集となります

●本会報は会員以外にも送付しております。趣旨協賛いただける場合、同封の郵便振込用紙にてお願いします。2018年度活動は2018年11月～2019年10月となります。
●今年度の緑化植林派遣団は5月と7月に実施されます。添付の要綱案内にてご参加を呼びかけます。

「2018年植林と草原の風にふれる旅」に参加して

重層化されている砂漠化対策を見る

木原 勇

2018年7月19日(木)～24日(火)の6日間、中国・内蒙古自治区シリンゴル盟多倫県にて「蒙京津冀青少年生態緑化モデル林プロジェクト」「日中青年灤河源生態緑化モデル林事業」に参加。今回は、岩手大学から樹木医・林業関係者が帯同し大変心強い植林ツアーとなった。

植林と友好の旅として今回で通算 22 回目であり、IFCC 国際友好文化センターとしては「IFCC 緑の架け橋プロジェクト」、アジアロード企画では「草原の風にふれる旅」をそれぞれのテーマとして位置づけた。

内蒙古・多倫県での継続四期目の事業として、植林とこれまでの事業地保育状況視察が主な内容。



植林の後、モンゴルの風にふれる。村のナーダム祭で

プロジェクト総括会議では、最初に王佛萌さんから、歓迎のあいさつがあり、続けて、燕尼林業局主任より日中青年灤河源生態緑化モデル林事業の話をうかがった。

多倫県で、すでに植林を行っている場所とプロジェクトと重ね、最初の頃は樟子松を植林していると報告があった。

報告会終了後、現地視察。ここでは、20本の樟子松を植樹。苗木を植えるために、等間隔に穴を掘り、苗木を運び下し土で埋め、長いホースから水をかける作業を

行った。

砂漠地区ではなく、草原地区ではあったが、元々砂漠だったところを草原化し、そこに植えたのであった。

張連根林業局長から「植林が始まってから、生態系に変化がおこってきている。植える前には、まず、草を植え、根を生やす。ただ、砂地に穴を掘り植えても、育たない」と説明があった。

第一期事業地保育事業視察でも、張連根林業局長から「樟子松を植林している。2～3年はあまり成長しないが、4年過ぎると成長する姿がよくわかります」とのこと。

今回参加した、林業経験者が丁寧に観察していく中で「しっかり植えないと、冬に野ウサギに葉を食べられた形跡がある」「枯れている樟子松は植え替えることが大切」「できれば、苗畑も視察したい」との意見が出されていた。

青年灤河源生態緑化モデル林事業の保育状況視察を行った際には、4月に寧夏に行った時の状況との違いに戸惑いがあった。寧夏・固原市では障子松を植える時は、小動物から根を守るために根の周りに針金を巻いたり、植えた後も、長く細いホースから、必要に応じて水が出るように工夫をされていた。

この一つ一つ小さな作業が積み重なり、活着することで砂漠化が食い止められるのであった。

日程の最終日、北京市内にある中国国際青年交流センターにて、王希宏部長・羊強振科長と面談。

改めて、訪問の意義と現地視察を終えての意見交換を行った。王部長は「全国30か所でのこのような取り組みがあります。特に多倫県は、最も北京に近い。すでに多倫では、砂漠化対策を行っているが、このプロジェクトを行うことで、重層化されている。今後も続けなくては行けない」と、強調。

今回の多倫の訪問は、4月の寧夏との違いが浮き彫りになり、貴重な時間を過ごすことができた。

(18/10/01 記)

(特定非営利活動法人アジアロード 副理事長)

【プロジェクト 2017 年度収支 (2017 年 11 月～2018 年 10 月)】(仮)

費目	実績(円)	摘要	費目	実績(円)	摘要
繰越金	0		事務所間借代	0	240,000 未払い
協賛会費	68,000		通信・送料	223,857	電話代含む
植林協力金	120,000	派遣団より	事務局費	205,083	翻訳、会場費等
寄付金	0		事業費	1,592,720	派遣費補填
賛助金	392,720		印刷代	212,014	会報2回含む
助成金①	450,000	事務経費、基金より	備品・消耗品	19,400	
助成金②	1,200,000	派遣経費、基金より	7期功記基金	0	
会場費	0	学習会参加費	返済金	294,138	16借入金
借入金	336,004	IFCCより	未払金	0	16年度分事務所/
雑収入	0	団費余剰分	雑費	19,512	送金料
計	2,566,724		計	2,566,724	

【2017 年度貸借表】単位・円

貸方			借方			借方の説明
通帳	90,000	郵便振替	36,009	返済金	250,000	立上資金 250,000
現金	60,000	17 自己資金	219,868	借入金	336,004	17IFCC
				未払金	240,000	17事務所代
			計 495,877			計 826,004

プロジェクト 2018 年度の活動

2018 年度活動は 2019 年 10 月までとなります。

・植林派遣団は 5 月、7 月に予定

5 月：固原市植林派遣団

7 月：内モンゴル植林派遣団

・活動紹介のため、年 2 回の会報発行

・協賛会費へのご協力をお願い

年会費は一口 3000 円です。何口でも可能です。同封郵便用紙をご利用ください。



日中緑化交流基金の 2018 年度助成金 (2018 年 11 月～2019 年 10 月) が確定しましたので、新年度協賛会費と植林緑化派遣団へのご参加を呼びかけます。

日中緑化交流基金の2018年度助成金(2018年11月~2019年10月)が確定しましたので新年度協賛会費と植林緑化派遣団へのご参加を呼びかけます。

2018年度(2018年11月~2019年10月)の事業地原状と事業規模

日中青年寧夏固原市生態緑化モデル林事業地



区分	日中青年寧夏固原市生態緑化モデル林 五期目		摘要
	事業経費(千円)	内容	
植林	16,459	22,000本(27ha)	苗木購入、植え付け、補植など
保育	1,836	灌水・農薬散布・施肥等	灌水、施肥、農薬散布、獣害防除
機材調達	425	農薬散布器、ホシ、肥料等	造林用作業具、農薬散布機等
基盤整備	1,360	灌漑設備等	作業道、灌漑水路整備
事務経費	270	通信・印刷等	
技術者派遣	500	派遣旅費等	
その他	0	測量計画費等	助成経費以外の経費
合計	20,850(内、助成9,850)		

蒙京津冀青少年生態緑化モデル林プロジェクト事業地

区分	蒙京津冀青少年生態緑化モデル林プロジェクト 五期目		摘要
	事業経費(千円)	内容	
植林	6,725	50,000本(33ha)	苗木購入、植え付け、補植など
保育	2,272	除草・施肥・農薬散布等	灌水、施肥、農薬散布、獣害防除
機材調達	504	消火器、肥料等	造林用作業具、農薬散布機等
基盤整備	1,190	灌漑設備等	灌漑水路整備
事務経費	270	通信・印刷等	
技術者派遣	500	派遣旅費等	
その他	255	技術指導等	助成経費以外の経費
合計	11,716(内、助成8,050)		



日中青年灤河源生態緑化モデル林事業地



区分	日中青年灤河源生態緑化モデル林事業 四期目		摘要
	事業経費(千円)	内容	
植林	7,900	44,000本(40ha)	苗木購入、植え付けなど
保育	7,140	除草・施肥・農薬散布等	灌水、施肥、農薬散布、獣害防除
機材調達	0	消火器、肥料等	造林用作業具、農薬散布機等
基盤整備	0	灌漑設備等	灌漑水路整備
事務経費	270	通信・印刷等	
技術者派遣	500	派遣旅費等	
その他	511	測量計画設計費	助成経費以外の経費
合計	16,321(内、助成8,450)		

足掛け17年間の事業実績

プロジェクト名、事業実施期間	本数と植積	樹種
寧夏紅寺堡生態緑化プロジェクト(済) 2002年度~2004年度	582,420本 380ha	ポプラ、アカシア、神樹、ナツメ、トネリコ、ヤナギ、コマツナギ
寧夏・日中青年平羅県生態緑化林事業(済) 2004年度~2006年度	1,275、200 290ha	紫穗槐、河柳、トネリコ、ナツメ
日中青年寧夏中衛生態緑化モデル林事業(済) 2005年度~2007年度	1,065,400本 300ha	臭椿、新疆楊、紫穗槐、ナツメ、沙棗、檉条、アカシヤ、寧条苗、花棒
日中青年銀川生態緑化林事業(済) 2007年度~2009年度	395,480本 180ha	コノテガシワ、国槐、新疆楊、臭椿、山桃、ホソグミ、紫穗槐、毛条、ニセアカシア、沙棗、山杏、互葉酢魚草、杜梨緑籬、樟子松、ツバキ
日中青年石嘴山生態緑化林事業(済) 2007年度~2009年度	271,300本 182ha	沙棗、白蟻、国槐、ニワウルシ(臭椿)、ニセアカシア、胡楊、紅柳、火炬、早柳、砂棗、コマツナギ(紫穗槐)
寧夏中寧県日中青年生態緑化モデル林事業(済) 2008年度~2010年度	269,000本 300ha	新疆ポプラ、エンジュ、柳、トネリコ、ニワウルシ、リンゴ、クコ
寧夏吳忠市太陽山開発区日中青年生態緑化モデル林事業(済) 2010年度~2012年度	1,744,400本 210ha	ニセアカシア、新疆楊、紅柳
日中青年石嘴山市恵農区生態緑化モデル林事業(済) 2010年度~2012年度	1,090,000本 220ha	沙棗、沙柳、紫穗槐、紅柳 ※黄河氾濫で破損
日中青年河北遷西県生態防護林(済) 2011年度~2013年度	370,000本 157ha	側柏、タイマツ、栗、山杏樹、
日中青年寧夏固原市生態緑化モデル林(5期目へ) 2014年~2018年	106,800本、109ha/済 (2017年度分まで)	雲杉、山桃、旱柳、ライラック、レンギョウ、油松、樟子松
蒙京津冀青少年生態緑化モデル林プロジェクト(5期目へ) 2014年~2018年	217,800本、132ha/済 (2017年度分まで)	樟子松
日中青年灤河源生態緑化モデル林事業(5期目へ) 2014年~2018年	373,000本、220ha/済 (2017年度分まで)	樟子松、雲杉
2017年度(2018年10月)終了時	2,680ha(累積)	

2018年度(2018年11月～) 中国植林緑化活動協力事業 寧夏回族自治区・内モンゴルシリングル盟での事業実施図

